

自治体の課題、現状

本町では、小中学生が地域活動に積極的に参加している。町内2中学校では21運動部活動が活動しており、部活動入部率も高いことから、部活動が担う教育的意義も大きい。一方で、生徒数減少とそれに伴う教員数の減少により維持困難な部活動も増えている。また、競技未経験の教員が顧問になることへの重圧も大きい。

令和6年に引き続き、2中学校がともに活動する地域クラブのモデル構築を進めているが、実施主体や指導者の確保等、町内における持続的で多様なスポーツ・文化活動環境の整備が課題である。

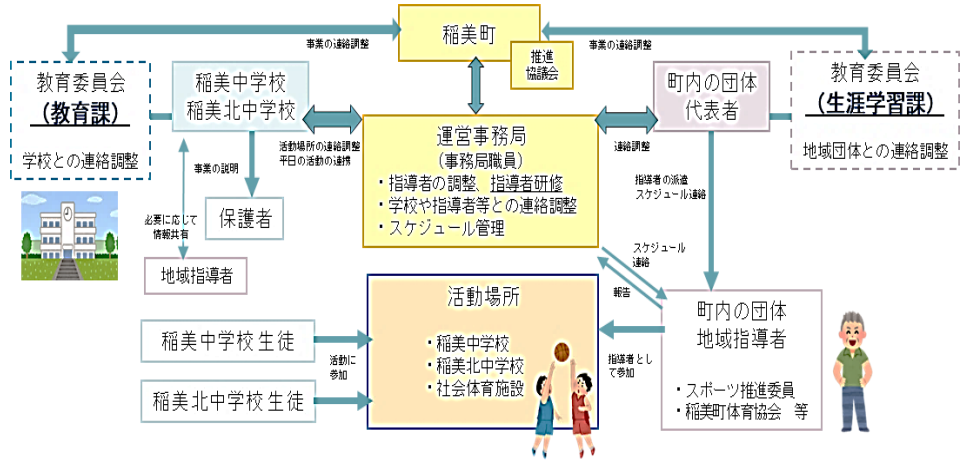
地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	816人
域内の部活動数	26部 (うち運動部21部)	実施した地域クラブ数	11クラブ
全体の指導者数	28人	全体の運営スタッフ数	12人(指導者兼務含む)
主な運営団体	稲美町教育委員会		
主な種目	サッカー、バスケットボール、ソフトテニス、軟式野球、卓球等		
平均的な活動回数	2回/月	年間平均参加生徒実数	3年：12人/クラブ 2年：12人/クラブ 1年：10人/クラブ
参加会費	0円(試行期間のため) 部活動の用具を使用、部費は保護者負担	主な活動場所	稲美中学校 稲美北中学校

地域移行関連の取組、成果

- サッカーでは、**指導者の役割分担**により、地域クラブのモデル構築を行った。打ち合わせシートにより、指導の行き違いをなくし、効率的な指導を目指した。
- バスケットボールでは、**理学療法士やスポーツトレーナーと連携**し、技術面の指導だけでなく、生徒の身体のメンテナンスにも焦点を当てた練習を行った。
- ソフトテニス、軟式野球、卓球においては、合同練習を定期的に行い、**活動の集約による集団活動の充実**を目指した取組を行った。
- 稲美町体育協会では、「スポーツフェスティバル」を開催し、**多様なスポーツの体験機会の創出や多世代との交流**につながる機会となった。

運営体制図



自治体の課題、現状

「現状」

- 部活、地域クラブ合わせて730人（全生徒数の71.1%）がスポーツ活動に参加
- 参加率の低下や特定の部に参加者が集中
- 競技経験のない教員が顧問を担当している部の増加
- 生徒、保護者の部活動に対するニーズの多様化
- 多様化する生徒の対応や教員の多忙化による業務負担の増加

「課題」

- スポーツ活動の質や指導者の量の確保の点から持続可能な困難
- 中学生にとって持続可能で適切なクラブライフの環境整備が急務
- 新たなスポーツ環境の構築に向けた取組が急務
- 9年間を見据えた系統的な指導体制の確立

地域スポーツクラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	1,022人
域内の部活動数	19部	実施した地域クラブ数	29クラブ ・平日地域展開：20 ・休日地域展開：19
全体の指導者数	104人	全体の運営スタッフ数	5人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブNPO法人スポーツクラブ21はりま		
主な種目	ハンドボール、ソフトボール、剣道、陸上競技、サッカー、バレーボール、他		
平均的な活動回数	20回/月	年間平均参加生徒実数	3年：10人/クラブ 2年：10人/クラブ 1年：10人/クラブ
参加会費	9,310円/年 (29クラブ平均)	主な活動場所	播磨中学校 播磨南中学校 播磨小学校

地域移行関連の取組、成果

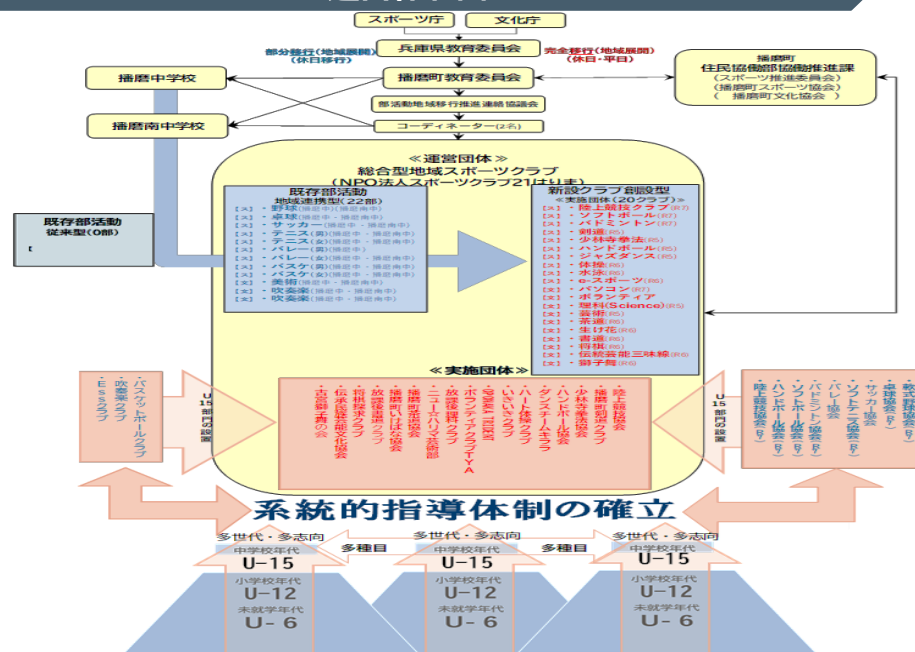
「取組」

- コーディネーターによる運営団体等と学校との緊密な連絡調整
- 運営団体の再整備による機能充実や大学と連携した取組の促進
- スポーツ指導者の質の保障及び量の確保方策の確立
- 活動時の安全面の確保等に関する取組
- 生徒のニーズに応じた多様な種目、活動の提供
- 公費以外の財源の確保（クラウドファンディング等）に関する取組、他

「成果」

- 生徒のニーズに対応し、陸上、ソフトボール、バドミントンの3クラブを新設し、計10クラブが地域展開
- 兼職兼業制度を活用し、50名の教員や公務員を確保
- 指導者の確保により、すべての部活動が休日展開を完了
- 不登校傾向や特別支援学級の生徒が新設クラブ等に参加し、新たな居場所の確立

運営体制図



自治体の課題、現状

- 当町において、生徒数の減少が大きな問題になっており、数年後には小学校の統廃合が行われる。既存の部活動をすべて運営することは、困難で廃部の検討や個人種目のクラブの選定等必要になってくる。
- 近隣町と合同での活動に向けて検討はしているが移動手段や活動場所、活動時間、指導者の確保等の課題は多い。
- 地域展開を進める上での最大の課題は、指導者の確保にあると考えている。現状では、人材バンクを開設しても、登録者が増えない状況が続いている。

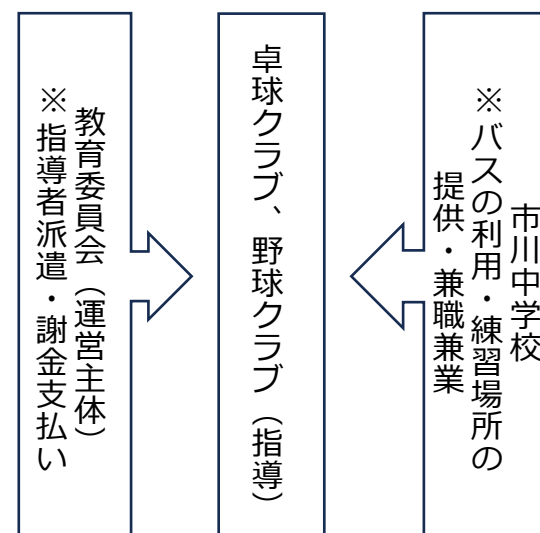
地域クラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	246人
域内の部活動数	7部	実施した地域クラブ数	2クラブ
全体の指導者数	8人	全体の運営スタッフ数	2人
主な運営団体	教育委員会事務局		
主な種目	卓球、野球		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：0人/クラブ 2年：10人/クラブ 1年：10人/クラブ
参加会費	0円/年	主な活動場所	市川中学校

取組の概要や成果

- 関係団体に依頼するのではなく、関係団体に所属している競技団体に直接依頼し、**相互の利益が一致することを理解してもらう**ことにより、協力を得ることができた。
- 指導者に「生徒を預かっている」という自覚を持ってもらうため、謝金等を最大限支払えるようにした。すると、中学生のみならず、小学生や一般参加者の名簿まで作成したり、スポーツ安全保険費の加入を促す等、責任ある運営ができていた。
- 参加者は徐々に増え、指導者もボランティアで参加してくださる方もいた。

運営体制図



自治体の課題、現状

本年度より、教育委員会を中心として「福崎町中学校部活動地域展開推進協議会」を発足した。これまでに計4回の協議会を開催し、今後の福崎町における地域展開の方向性について協議を重ねてきた。

本事業の推進にあたっては、学校教育担当の「学校教育課」と生涯スポーツ担当の「社会教育課」が緊密に連携するとともに、「学校部活動コーディネーター」を配置し、地域団体・学校・行政の三者をつなぐ調整役として事業展開を試みた。

しかしながら、地域展開に関する知識や具体的な内容について各組織間の理解を深めるまでに時間を要し、地域クラブの要望と学校との調整においては多くの課題に直面した。

今後は、これらの課題を踏まえ、令和8年度における実証事業の拡大を図るとともに、「福崎町中学校部活動地域展開推進計画」の策定を進めていく。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	530人
域内の部活動数	21部	実施した地域クラブ数	24クラブ（4クラブ）
全体の指導者数	16人	全体の運営スタッフ数	15人
主な運営団体	総合型地域スポーツクラブ・スポーツ少年団		
主な種目	男子バレーボール・男女陸上・男女卓球・剣道		
平均的な活動回数	2回/月	年間平均参加生徒実数	3年：0人/クラブ 2年：10人/クラブ 1年：7人/クラブ
参加会費	0円/月	主な活動場所	町内小学校・中学校

取組の概要や成果

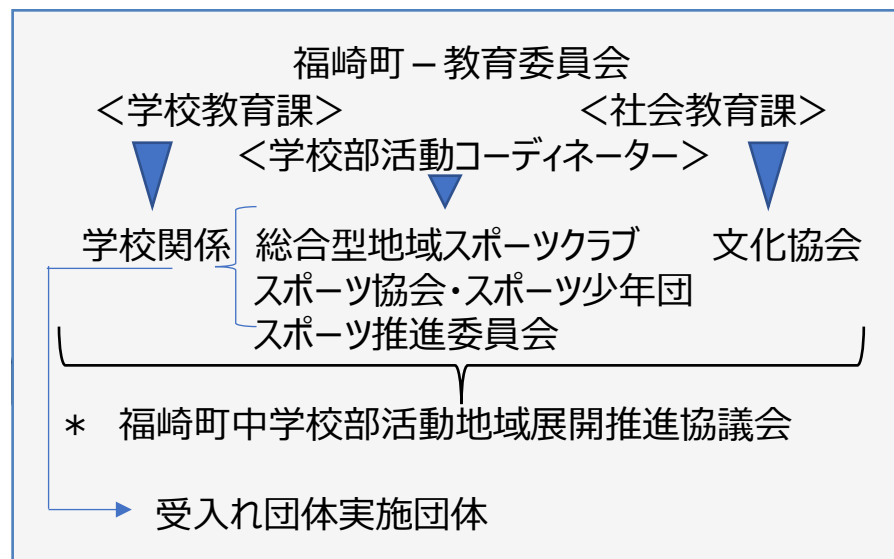
本年度より、スポーツクラブ、スポーツ協会、スポーツ推進委員代表をはじめ、小・中学校PTA代表、学校代表で構成する「福崎町中学校部活動地域展開推進協議会」を発足し、協議会を開催した。

あわせて、学校部活動コーディネーターを配置し、4種目の実証事業を実施した。さらに、保護者、生徒、教職員を対象としたアンケート調査を行い、福崎町における実態把握に努めた。

実証事業においては、指導者側から指導目的や連絡方法、緊急時の対応、さらには責任の所在といった運用上の問題点が提言された。

また、アンケート調査の結果から、保護者側は活動に伴う費用負担（受益者負担）の必要性を理解している一方、教職員側においては地域展開に対する理解が依然として不足しているという実態が明確になった。

運営体制図



自治体の課題、現状

以前は単独校で活動したりチームを作れたりしていた部活動も、部員数が0になり廃部となった部活動も出始め、現在町内2中学校の部活動数は運動部活動25、文化部活動5の合計30部活動となっている。

本年度はソフトボール部と男子バレーボール部を拠点校方式による部活動としたり、部活動指導員を増員した形での地域連携を推進したりしてきた。

また、部活動の現状や課題を協議してきた部活動地域展開等検討準備委員会や部活動合同顧問会議を経て部活動地域展開推進協議会を設置し、部活動のあり方や地域展開の方向性を検討するとともに、持続可能なスポーツ・文化芸術創造活動の環境整備を進めているところである。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	1,001人
域内の部活動数	25部	実施した地域クラブ数	6クラブ
全体の指導者数	17人	全体の運営スタッフ数	25人
主な運営団体	太子町スポーツ協会、太子町スポーツ少年団、太子町スポーツクラブ21、クラブチーム		
主な種目	バドミントン、バレーボール、バスケットボール、剣道		
平均的な活動回数	10回/月	年間平均参加生徒実数	3年：0人/クラブ 2年：8人/クラブ 1年：6人/クラブ
参加会費	2,200円/月	主な活動場所	町施設、学校施設

取組の概要や成果

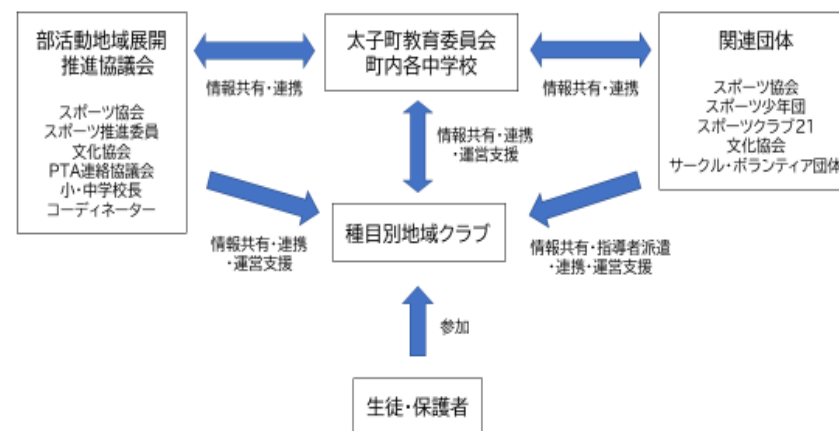
○昨年度設置した指導者人材バンクについて、町のホームページ等で周知することで登録者が7名増加した。登録者の中には地域クラブの運営も視野に入れている指導者もいる。

○運動系・文化系の両団体から申請があり、学校部活動を移行した形の地域クラブが5クラブ、学校部活動にない種目の地域クラブが文化系も合わせると2クラブの計7クラブが地域展開を開始した。スポーツ協会やスポーツ少年団、スポーツクラブ21、クラブチーム、文化系サークル等地域の団体が実施主体となり、活動を行っている。

○教職員の人事異動や市郡町中体連を同じにする、たつの市とも連携を取りながら地域展開のあり方を検討してきた。

運営体制図

学校部活動の地域展開全体像



自治体の課題、現状

本町の中学校は1校のみであり、町内のほとんどの生徒が上郡中学校に進学するが、少子化の影響により、生徒数も年々減少傾向にある。そのため、部員数不足により廃部を余儀なくされる状況が発生している。特に団体種目の部活動の成立が困難となったケースがある。また、教員が経験のない分野の運動部の指導を担当することによる怪我や事故のリスクも考えられる。そのため、地域と連携した部活動の在り方を早急に検討する必要がある。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	1校	全生徒数	291人
域内の部活動数	9部	実施した地域クラブ数	1クラブ
全体の指導者数	7人	全体の運営スタッフ数	7人
主な運営団体	上郡ジュニアソフトテニスクラブ		
主な種目	ソフトテニス		
平均的な活動回数	4回/月	年間平均参加生徒実数	3年：0人/クラブ 2年：12人/クラブ 1年：15人/クラブ
参加会費	0円/月	主な活動場所	上郡町スポーツセンター

取組の概要や成果

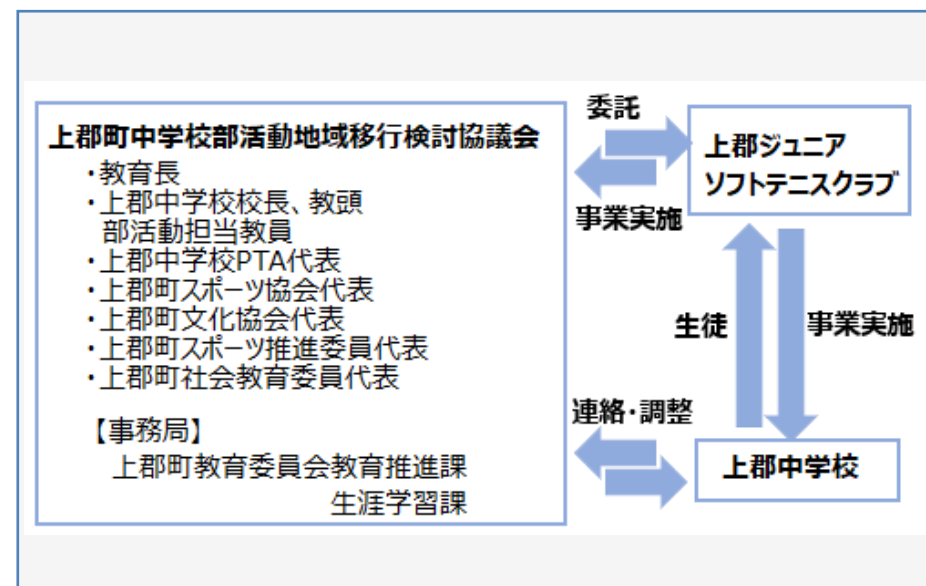
【取組の内容】

- ・ 上郡町中学校地域移行検討協議会での熟議
- ・ 上郡ジュニアソフトテニスクラブによる実証事業実施
- ・ アンケート調査の実施

【成果】

- ・ 実証事業における生徒の満足度は高く、トラブル等もなく実施することができた。また各方面へのアンケートを実施することにより、今後の課題、解決の糸口を見いだすことができた。

運営体制図



自治体の課題、現状

兵庫県新温泉町は、急激な少子化により部活動改革は喫緊の課題である。部活動数の維持が難しくなっており、野球部は昨年度から2中学校で合同部活動を行っている。また、近年では単独でチームを組めない部活動は、自治体を越えて合同部活動を行っており、50kmを超える送迎は、保護者の負担になっている。さらに、加速する少子化は、部活動を中学校のみで課題を解決できる状況ではなくなっており、校種間を越え、町全体で改革を考える状況となっている。

地域クラブ活動等の概要

中学校数	2校	全生徒数	264人
域内の部活動数	13部	実施した地域クラブ数	3クラブ
全体の指導者数	5人	全体の運営スタッフ数	2人
主な運営団体	新温泉町クラブ活動試行協議会		
主な種目	ソフトボール、相撲、空手		
平均的な活動回数	4回/年	年間平均参加生徒実数	3年：5人/クラブ 2年：3人/クラブ 1年：4人/クラブ
参加会費	1,000円/年	主な活動場所	浜坂高等学校

取組の概要や成果

新温泉町「地域と協働した部活チャレンジDay」という事業名で、ソフトボール、相撲、空手で運動部の試験的事業を行った。急激な少子化を踏まえ、募集は小学校高学年から高校生まで幅広く行い、会場は浜坂高等学校とした。理由は、令和8年度から連携型中高一貫教育校を導入予定であり、部活動の面でも連携が図れないか探るためである。成果は、世代を超えて楽しみながら活動ができただけでなく、高校生の探究において「部活動の地域展開」をテーマにしたグループセッションが行われる等、改革の機運が高まった。

運営体制図

